

学校保健

JAPANESE SOCIETY OF SCHOOL HEALTH

平成22年5月

No. 282

財日本学校保健会ホームページアドレス
http://www.hokenkai.or.jp/



(財)日本学校保健会

平成22年度
年間特集

テーマ「学校での応急処置・対応」

適切な知識が安心につながる

今年度本誌の年間テーマは「学校での応急処置・対応」です。今号から心臓突然死や頭部のけがなど緊急を要するけがや疾患の対応のほかに軽度の外傷の場合の新しい処置法情報などを取り上げていきます。

子どもたちの不幸を最小限に止めるためには、養護教諭だけでなく教職員全員がその場合に合った適切な対処ができるように心がけておく必要があります。(第1回掲載2～4ページ)

障害種別	学校種別	特別支援学校						幼稚園	保育所	計
		小学校	中学校	高等学校 高等専門学校	特 小 学	中 学	高 等			
歯 牙 障 害		15	22	68	1		1			107
視 力 ・ 眼 球 運 動 障 害		31	40	41			1	2	3	118
手 指 切 断 ・ 機 能 障 害		8	9	13			1	1	3	35
上 肢 切 断 ・ 機 能 障 害		2	5	2						9
足 指 切 断 ・ 機 能 障 害									1	1
下 肢 切 断 ・ 機 能 障 害		1	3	2						6
精 神 ・ 神 經 障 害		4	11	22	1					38
胸 腹 部 臓 器 障 害		6	5	13						24
外 貌 ・ 露 出 部 分 の 醜 状 障 害		55	23	20	1	1		4	13	117
聴 力 障 害		2	2	2						6
せ き 柱 障 害		2	2							4
そ し ゃ く 機 能 障 害										0
計		126	122	183	3	1	3	7	20	465

学校管理下の障害種別の発生件数

(独立行政法人日本スポーツ振興センター/学校管理下の死亡・障害事例と事故防止の留意点<平成21年版>より)

今号の誌面

特集 学校での応急処置・対応 I
歯・口のけがとその対応……………2～4
シリーズ健康をささえる
動き始めた学校歯科医生涯研修制度 5～6

成長曲線を描こう……………8～9
わが街出雲の健康教育と感染症対策……………11
全国養護教諭研究大会・I 徳島……………10

参加者募集のお知らせ

平成22年度 エイズ教育シンポジウム

主催：(財)日本学校保健会
(財)エイズ予防財団
(社)日本医師会
後援(申請中)：文部科学省他

日時：平成22年8月6日(金)
会場：日本医師会館大講堂(東京都文京区本駒込2-28-16)

- 内容：①基調講演「エイズ・性感染症の正確な知識と最新動向」
岡 慎一(国立国際医療研究センター病院エイズ治療・研究開発センター長)
②パネルディスカッション
「今、学校教育で求められるエイズ教育のあり方」
～エイズ予防と思春期の諸課題との関わりから～
和田 清(国立精神・神経医療研究センター薬物依存研究部長)ほか
③実践発表

募集定員：500名(申込先着順、定員になり次第締切り)

※詳細は「学校保健ポータルサイト」、実施要領、参加申込みシート付き案内チラシをご覧ください。

問合せ先：(財)日本学校保健会 TEL 03-3501-0968 担当・三谷

乞御回覧

校 長	教 頭	保健主事	養護教諭	学校栄養職員	PTA	会 長	副会長	

【お知らせ】「学校保健」は年6回(奇数月)の発行になります。学校保健委員会の参考に学校医等の方へもご回覧下さい。

平成 22 年度

特集 学校での応急処置・対応 I

歯・口のけがとその対応

受傷状態と処置方法

(社)日本学校歯科医会常務理事・日本大学名誉教授 赤坂 守人

1. はじめに

学校生活での不測の事故による歯・口部位のけが・外傷の発生は少なくありません。独立行政法人日本スポーツ振興センター災害共済給付件数の報告によると、特に歯・口部位の障害が他の身体部位に比べ多く発生しています。この統計は比較的重症のけがですが、軽症を含めるとさらに増えると思われれます。近年では児童生徒の永久歯がむし歯で喪失することが少なくなり、その分、学校でのけが・外傷により歯を失うことが増えています。

歯・口の外傷は、ときに頭部の損傷を伴う重篤な症状や歯の保存・修復が困難な場合があります。また外傷当事者間のトラブルに発展することも多くみられます。事故によるけが・外傷等は、学校生活に限らず、子どもたちの全ての生活圏で、また生涯を通じて起ってきますので、安全・安全管理や安全教育を充実させさせることで、教職員の安全・事故対応能力を高め、さらに児童生徒自身が危険を予測し、回避する能力を高めることが必要です。さらに保護者とは普段から学校での安全管理面、あるいはけが等の事故発生時の対処等を説明し理解を深めておくことが、信頼関係を築き当事者間のトラブルを未然に防ぐこととなります。

2. 歯・口の受傷状況

学校での歯および口のけが・外傷が発生したとき、児童生徒等はパニックになり、また口の軟組織の外傷では唾液も混ざって出血量が多く感じます。まず、受傷した歯および口腔の状態を冷静に観察することです。それによって初期段階の処置を決め、また正確な記録を残すためにも必要です。そのため歯の受傷状態の種類を概略知っておくこ

とです。歯の外傷は大きくは破折と脱臼に分けられます。

1) 歯の破折

破折は歯冠部と歯根部に分けられます。歯冠部の破折部位が歯の先端部の一部で、冷水などに感じる程度ならば、緊急度は低く、近日中に歯科医療機関を受診するようにします。歯冠の破折部が歯肉部に近く深く、歯髄が露出している場合は、早急に歯科医療機関で処置しないと、その後の治療期間が長くなり、また完全な治療が困難になります。

歯根破折の有無はガーゼを持った手指で歯冠部を摘んで、歯の動揺状態で判断します。動揺がみられるときは歯根部の破折もしくは歯の脱臼を起こしていることが予測されます。このような症状も緊急な処置が必要です。歯の動揺（脱臼）がみられず歯冠破折片が少なくとも、冷水にしみるなどの症状があるときは、放置すると歯髄死を起こすこともあるので、近日中に歯科医療機関での受診が必要です。

歯の破折は永久歯列の場合、歯根の発育度が高く、隣接する歯が萌えているような小学生高学年や中学生で発生しやすくなります。

2) 歯の脱臼

脱臼は歯の位置が歯列あるいは隣の歯に対し、前後（水平的）あるいは上下（垂直的）に移動した状態を不完全脱臼（転位）と呼び、歯が下方にめり込んだ（埋入）状態と、上方に飛び出した（挺出）状態に分けられます。その最も移動が激しい状態が歯の脱落で完全脱臼といえます。それぞれの状態で緊急性や処置法が違ってきます。脱臼は歯の破折に比べ出血することが多くみられます。

脱臼は、永久歯では歯根の発育が十分でなく、隣接する歯がまだ萌えていない小学生低学年に比較的多く発生します。

3. 受傷時の処置と対応

けが直後に出血を認める場合は直ちにその場で圧迫止血処置を行います。必ず早期に養護教諭に連絡あるいは保健室での観察と処置を行います。脱臼や口腔軟組織の損傷を伴う場合は出血があるので、滅菌ガーゼ等で止血あるいは血を拭きとってよく観察します。出血している場合は、先ず圧迫止血あるいは局所的止血剤の塗布を行い止血します。今後の処置を含む対処法については学校歯科医に緊急に連絡し、相談あるいは指示を受けることが必要です。また、外傷による記録は当事者間のトラブルを防ぎ、外傷の処置を決定するにも重要な資料になりますので、内容項目と正確な記録が必要です。なお歯の外傷の記録として重視されるのは、受傷から受診までの時間、受傷状態、完全脱臼の場合は、脱落歯の汚れ状態、保存状態などで、一般の外傷記録票に追加しておくことが必要です。

歯の破折は保健室での緊急処置は比較的少なく、歯の脱臼、口の軟組織の裂傷、歯槽骨および顎骨骨折などは緊急的処置が必要になります。受傷直後、受傷歯が隣接する歯より大きく挺出し、また水平的にずれた位置にある不完全脱臼のときは、歯を元の位置に押し込み戻すことで、予後も良くまた止血にもなります。

歯が脱落する完全脱臼の処置は、脱落した歯の汚染状態、脱落した場所（室内か屋外か）、脱落からの時間、保存液の有無などを調べ、直ちに元の位置に歯を挿入するか、保存液に浸すか判断します。保存液が無い場合は生理的食塩水或いは牛乳などに浸し早急に受診します。脱落した歯が保存可能か否かは、処置までの時間が大きく影響します。なお屋外で歯が脱落して砂などの汚れが付着しているときは簡単に水洗い

をし、歯根に付着している軟組織まで除去し洗い流さないように注意します。

4. 小児期のスポーツによる歯・口の外傷

わが国の小児期のスポーツは伝統的には柔道、剣道など屋内でのスポーツであって、その防護についても、それなりの伝統がありました。しかし近年、屋外スポーツが盛んになり、球技を中心に多種多彩となって、それだけスポーツによる事故、外傷も多くなっていますが、その予防についての対策や指導が遅れています。部活動の指導者や保護者はこの点をとくに配慮する必要があります。スポーツ外傷により歯・口腔領域を保護し、受傷を予防するためにマウスガードを着用することを勧めますが、現在、マウスガードには市販品をはじめさまざまな種類があり、スポーツの内容、適応年齢によって適切なマウスガードが異なりますので、学校歯科医と事前に相談しておくことが必要です。

5. 学校給食による誤嚥、窒息の対応

食品による誤嚥および窒息による死亡例は、正確な統計が不足していますが、幼児児童生徒にもかなりの数が認められます。食品として多いのは、もち、米飯（おにぎり）、パン、豆、グミゼリーなどです。予防としては、児童生徒が食べ物を口に詰め込まない、一口量をよく噛み（通常より5回位多く）、唾液を出して混ぜ合わせてからのみ込む習慣をつけるようにします。食べている途中で急に上を向いたり、友達が後方から押しついたりしないよう注意します。万一、誤嚥・誤飲を起こしたときの緊急処置として、児童生徒の場合は腹部突き上げ（ハイムリック）法、背部叩打（こうだ）法を行います。

保健指導・対応とけがの対処事例

千葉県立高州第二中学校養護教諭 渡部 澄絵

保健室の対応

日常の学校生活で、歯・口のけがの発生する原因は転倒、人や物への衝突がトップで、特に中学生の時期は、急激な成長と部活動など運動レベルのアップに技能が伴わずけがの発生も高率です。

更には精神的にも未熟で、様々な場面で感情的に無分別な行動に走ったりすることもあり、常に突発的な事故は予測が立ちにくく、こと、歯と口のけがとの関連は高いように思われる。（図1参照）

けがが発生した時、「どのような状況でけがをしたか」を正確に把握しなければ判断を誤ること

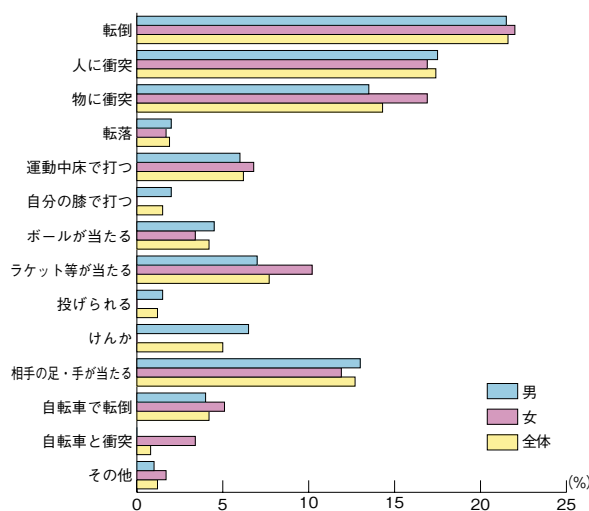


図1 中学校の原因別の傷害発生割合

(独立行政法人日本スポーツ振興センター/
学校管理下における歯・口のけが防止必携より)

があります。けがを確認する時は、頭部や歯・口の周りだけでなく全身の点検が必要です。同時に、脱落した歯をよく探さなければならないので、周囲の人への協力を呼びかけます。

特に口腔のけがは、状況によってはかかりつけ医ではなく口腔専門の医療機関へ直送となることも考えられるので、学校歯科医の他にいくつかの専門機関の情報を誰でもすぐ理解できるように(電話番号、住所、診療時間など)表示しておくことも必要です。

生徒への指導

生徒への事前指導としては学級指導での『けがの予防』指導時に、また6月の『う歯予防指導』時での歯と口の構造で、けがの予防にもふれます。さらに部活動でも各種目で起こりやすい事故と予防について指導することも必要です。

事故が発生した時は事後指導として、一般生徒にも日常生活の注意を喚起させるために、状況だけでなく、対処法などの指導をします。もちろん第一番として、全職員に理解してもらうところから始めます。

けがの対処事例

歯・口のけがは、突発的に、そしてどちらかというところ「どうして?」というような、不注意によるものが多いように感じています。

最近の自分自身の体験では、生徒間のトラブルで殴られて犬歯が頬を貫通した事例があります。事故後、保健室に来た時には出血も止まっています。

一見、口腔内からの出血のようにも見えましたが、点検して出血部を拭き取っていると、頬の外側に傷口を発見しました。歯自体はどこも異常が見られませんでした。そつとうがいをしてかかりつけ医へ移送し、受診先で保護者と合流しました。一方、殴った方の生徒の保護者にも学校に来てもらって事故の経緯を説明し、受診結果を受けて、双方の保護者で話し合いを持ってもらいました。

また近隣の中学校で発生した事故では、1年男子が移動教室の時に友人とふざけていて、身体をグルグル回されて目が回り、両手に持った教科書をしっかり抱えたまま顔から床に倒れ、前歯を亜脱臼する事故がありました。

他にも、①テニス部でラリーをしていてボールを拾いに行った時、他の生徒のラケットが前歯に当たり、5分の1ほど欠けた事例、②掃除の時間、雑巾がけをしていて、友人がふざけて手を出したのでびっくりして急ブレーキをかけたが顔から床に突っ込んで前歯が欠けた事例、③体育の授業で走っていて、前の生徒が転んだのを避けようとしたが間に合わずに転倒し、前歯を折った等等など。この3件は、折れた歯を持って行きましたが残念ながら元に戻りませんでした。

事故が発生すると、誰もが「事前に一言、注意しておけば」「事前に点検しておけば」その事故は防げたのではないか、と悔やみます。『ヒヤリハットの法則』を忘れずに対応したいと考えています。

『学校管理下における歯・口のけが防止必携』 (日本スポーツ振興センター発行) の活用について

正直なところ、この本の作成に参加させていただけまで、自分自身、「歯と口のけが」に対する意識が低かったと反省しています。

頻繁に発生しないのでどうしても関心が低くなりがちですが、これらのけがはいざ発生すると、関係者や災害給付も含めて2次的なトラブルへと複雑化しやすい問題です。

この本は、すべての教職員に読まれるよう作成されました。

まずは自分の校種の特徴と災害の事例を確認してください。そして、具体例と応急手当も含めた知識を周知徹底するよう取り組んでいただければと思います。

シリーズ 23

「健康教育をささえる」 ～学校歯科医の現場から～

動き始めた学校歯科医生涯研修制度

(社)日本学校歯科医会 常務理事
赤井 淳二

＜学校歯科保健の成果とこれから＞

このほど発表された文部科学省の平成21年度学校保健統計調査速報によれば、むし歯の罹患率の一つの指標となる「12歳児の永久歯の一人当たり平均むし歯数(う歯)等数」は昭和59年から年々減少傾向を見せ、平成21年度には1.40本と過去最低を記録しました(図1)。グラフから推測されるように、この減少傾向は平成7年の学校保健法施行細則の改正があった時期と一致して始まり、学校歯科保健の考え方が大きく変化したことに起因するものと考えられます。改正以前は疾病発見型の保健管理が中心の考え方で早期発見早期治療を旨としていましたが、予防を中心とした健康観の育成を目指した保健教育を重視した考え方へ変わり、“むし歯は痛い病気、怖い病気”といった疾病を見るのではなく、“歯は大切なもの、体の健康にとってなくてはならないもの”といった健康側からの視点へ変わりました。もちろん、むし歯の減少傾向は学校歯科保健の成果だけでなく8020運動などを柱とした地域歯科保健との相乗効果やかかりつけ歯科医の努力の成果でもありますが、ヘルスプロモーションを核とする保健教育が如何に大切であるかの実証でもあります。この結果、先般示された健康日本21の学齢期における数値目標の中でむし歯の罹患率については何とか目標が達成されそうです。しかしながら、一方では歯肉炎の罹患率の増大と低年齢化や摂食・嚥下を中心とした口腔機能の低下などが顕在化してきていることが問題になってきています。こういった疾病構造の変化により、学校歯科保健にはむし歯予防だけに偏在せず、歯・口の機能全般に及ぶ取組、さらには「食」というものにも目を向けた「食育」・「食習慣」あるいは「生活習慣」といったものに及ぶ広い範囲の取組が求められてきています。

「噛ミング30」(カミングサンマル)はこのような背景の中、歯科界全体で推し進めようとする

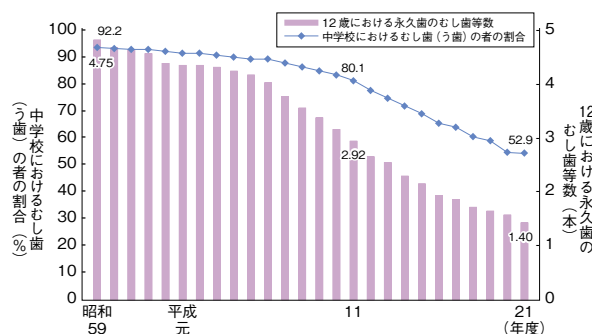


図1 中学校におけるむし歯の被患率等の推移

新たな取組で「一口30回噛もう」というスローガンの下、噛むことの大切さや噛むことの効用などを理解させることにより、子どもたちの健康の維持増進に寄与するとともに、8020運動に続く国民運動への発展を考えています。したがって、学校歯科医の学校における活動の範囲や取り組み方も従来のものとは大きく発想の変換が必要になってきています。

こういった背景の中、学校歯科医の資質の向上といったものが強く望まれているところですが、研修する場や機会といったものは都道府県あるいは郡市区でまちまちであり、地域による温度差も大きいのが現状です。日本学校歯科医会〔学校歯科医の全国組織(会員24199名*平成20年度)〕では、学校歯科医自らがまず襟を正すとの考えで長年にわたり検討を進め、平成21年4月より学校歯科医生涯研修制度を発足させ、全国展開しています。

＜学校歯科医生涯研修制度における基礎研修会の概要＞

「すべての学校歯科医が歯科医師としての専門性を活かしながら教育者としての資質を備え、積極的に学校歯科保健活動を推進し、生涯にわたってその資質の維持と向上を図り幼児・児童生徒の歯・口腔の健康増進に貢献することを目的とする」をこの制度の第一条に掲げ、まずその礎として平成21年4月より「基礎研修会」を全国展開

しています。研修の内容は学校歯科医がその職務を行ううえでの基礎となる「学校歯科保健の概念」「保健教育」「保健管理」「組織活動」に関する基礎的事項であり、3時間以上の研修時間が義務づけられています。研修の参加は任意ですが参加者には修了証が授与され、本人の承諾のもとその氏名をホームページで公開することになっています。統一したテキストを用い、全国的に同じ内容を研修することで学校歯科医が共通認識を持つことは、いままでなかなか行われなかったことであり、画期的なことです。制度の施行から平成22年3月までの1年間で、基礎研修会は38都道府県歯科医師会・学校歯科医会で実施され、受講者は約7000名に達しました。受講修了者へのアンケート調査なども行いながら、日本学校歯科医会の会員に限らず全ての学校



学校歯科医
基礎研修テキスト

歯科医が受講するように基礎研修会のさらなる充実を図るとともに、基礎に続くアドバンス研修の構築が検討されているところです。また、この研修内容は学校歯科保健活動を進める上で学校歯科医だけでなく、養護教諭の先生方を中心とする学校関係者にも参考になるものですので、テキストをご覧くださいのもよいと思います。

先ごろ学校における歯科健康診断についての記事が某新聞の投書欄に掲載されていましたが、先にも述べましたように学校における歯科健康診断は決して疾病の発見だけではなく、スクリーニングという手法を用いて子どもたちが自らの健康を自らが守るという健康教育を通して「生きる力」の育成に寄与することが目的です。日本学校歯科医会ではこの学校歯科医生涯研修制度を進めながら学校歯科医、学校教育現場の先生方が共通認識のもと連携を図り、広く国民の学校歯科保健に関する周知を進めて行きたいと考えています。子どもは国の宝です。学校歯科保健を通じてわれわれ学校歯科医が学校や子どもたちに貢献できることは少なくないと考えています。

小学校の校長・養護教諭・保健体育指導関係者の皆様へ

出張講座

楽しく学ぼう!

むし歯予防講座

応募締切 7月1日木



参加校募集

出張講座概要

- 募集対象** 全国10校の小学校(高学年対象) ※応募多数の場合抽選
- 開催時期** 2010年9月~12月
- 授業時間** 45分
- 専門講師** 日本歯科大学生命歯学部 福田雅臣准教授ほか予定
- 講座内容** 咀嚼判定ガムを使って「むし」事の大切さを体験しながら歯・口の健康づくりを学んでもらい、良好な生活習慣形成のための支援を目的とします。
- 申込方法** 以下の事項を明記して下記までFAXでお申込ください。
 - ①希望日時 ②参加予定学年・人数 ③担当教諭名 ④学校名
 - ⑤住所 ⑥連絡先(電話・FAX) ⑦植樹希望本数(最大5本)

特典

きむらゆういち先生の絵本プレゼント!!

「あらしのよりに」で有名なきむら先生書き下ろしの“歯の健康”がテーマの絵本。出張講座にお申し込めば、もれなく10冊差し上げます。

(きむら先生プロフィール)
東京都生まれ。多摩美術大学卒業。造形教育の指導、テレビ幼児番組のアイデアプランなどを経て、絵本・童話作家に。絵本・童話創作に加え、戯曲やコミックの原作・小説など幅広く活躍中。著書は500冊を超え、数々のロングセラーは国内外の子どもたちに読み継がれている。

出張講座の記念にキシリトールの原料となるシラカバの木を植樹させていただきます。



申込先:FAX 03-6222-4823
むし歯予防講座事務局(プラスエム内) 電話03-6222-5251

主 催 : (財)日本学校保健会
協 力 : **LOTTE**

各種案内

(財)日本学校保健会主催

(資料請求広告)

『海外健康教育事情視察旅行』 ～ライフスキル教育訪問の旅～

《オーストラリア・シドニー6日間》

予定日程:平成22年8月16日(月)～8月21日(土)4泊6日

訪問団団長:川畑徹朗(神戸大学大学院人間発達環境学研究科教授)

行程:①成田発 8/16 20:00(機内泊)でシドニー空港へ

②シドニー市内観光(シドニー泊)

③シドニー大学でのライフスキル教育視察、施設見学および講義(シドニー泊)

④⑤自由行動(2日間)(オプションで団長企画イベント有り)(シドニー泊)

⑥シドニー発→成田着 8/21 17:05

・旅行費用:旅行会社提示書面で確認し申込みください。(予定価格23万6千円)

・宿泊:アモラホテル・ジャミソン・シドニーまたは同等クラス(2名1室利用)

・最少催行人員:20名・申し込み締切日:平成22年7月2日(金)(先着順受付)

*掲載のツアーはこの広告での申込を受け付けておりません。資料を当社下記店舗までご請求ください。①電話 ②FAX ③E-mailで、旅行条件の詳細書面を請求ください。

【お申込み方法】下記JTBへ⇒資料請求⇒確認⇒正式申込み⇒ツアー参加

JTB 首都圏 川口支店 担当/岩波・山田

① TEL 048-227-2503

② FAX 048-227-2567

③ E-mail:t_iwanami660@jtb.jp 営業時間 10:00～18:00(土日、祝日休業)

治験啓発 感想文コンクールと漫画提供

社団法人日本医師会 治験促進センターでは、治験啓発漫画「治験って知ってる?」を題材に感想文コンクールを開催しました。

小学生から36点、中学生から16点の応募があり、受賞者が決定しました。受賞者及び受賞作品は、治験促進センターのホームページよりご覧ください。

また、引き続き、啓発漫画を無償で提供いたします。FAX 又はホームページよりお申込みください。

《FAX 申込み》

記載事項:学校名、氏名、郵便番号・住所、電話番号、希望部数(上限200部)

FAX 送信先:03-5319-3790

《URL》<https://dbcentre2.jmacct.med.or.jp/manga/>

※発送までに3週間程度お時間をいただく場合があります

啓発漫画
「治験って知ってる?」問い合わせ先
日本医師会治験促進センター
TEL 03-5319-3781

小学校の校長・養護教諭の皆様へ

みんなでのしく!

手洗いで出張講座

参加校
募集

出張講座概要

開催時期 2010年7月～2011年2月 授業時間/45分

対象 全国の小学校(1・2年生)

講座内容 なぜ手洗いが大切なのかを考えながら、正しい手の洗い方を学びます。洗い残しを
目でみてチェックしながら、洗い残しのない手洗い方法を身につけることを目的とします。

申込方法 必要事項を明記してFAXでお申込ください。

①希望日時 ※必ず第3希望まで記載ください ②参加予定学年・人数(※100名まで) ③担当
教諭名 ④学校名 ⑤住所 ⑥連絡先(電話・FAX) ⑦当日お手伝いいただける人数

応募締切 6月21日(月)

※応募多数の場合は抽選になります

申込先 FAX

03-5211-0617

手洗いで出張講座事務局
(オックスフォード・インターナショナル内)
電話 03-5211-0676主 催:(財)日本学校保健会
協 力:花王株式会社

ひとりひとりに 成長曲線を描こう

たなか成長クリニック院長
成長科学協会理事・日本成長学会理事長
田中 敏章

標準成長曲線

私たちは、生まれてから大人になるまでの間に、何回身長体重の測定をしているのでしょうか。生まれた時はもちろん、1か月、3か月、6か月などの乳幼児健診、幼稚園・保育園での健診、小学校、中学校、高校での身体計測を含めると、少なくとも20回以上は子どものうちに身長と体重を測定していると思います。これほど身体測定をしている国は、外国ではみあたりません。これらのデータを集計したものは、乳幼児身体測定統計や学校保健統計として報告され、全国の平均や県別の平均の比較などがされています。しかし皆さん、自分の、または子どもの成長記録を標準成長曲線の上に描いたことがありますか。子どもの大きな特性は、成長と発達です。成長に重要なものは、内因的な要素としてはホルモン、外因的な要素としては栄養ですが、そのほか感染・慢性疾患・愛情など、いろいろな要因が成長に関与してきます。したがって、子どもの成長が損なわれているときは、何らかの障害が働いている証拠です。これだけ頻回に測定されている身長と体重のデータは、子どもの健康のバロメーターといえます。しかし、測定した数字を眺めていてもなかなかわかりません。データを標準成長曲線に描くことによって、いろいろのことがみえてきます。

例えば、私が初診のクリニックで患者さんに記入してもらっている身長体重表(表1)があります。この子の主訴は夜尿でした。私のクリニックでは、患者さん一人一人に成長曲線を書いています。身長体重表だけを眺めていても何もわかりません。しかし、図1のように標準成長曲線に記入すると、成長がおかしいのが一目瞭然です。この男の子は脳腫瘍が見つかりました。腫瘍により尿を濃縮するホルモンの分泌が侵され、薄い尿がたくさん作られるために夜尿になっていたのです。同時に成長ホルモンの分泌も障害されていること

	測定年月日(西暦)	身長(cm)	体重(kg)
出生時	1995/4/15	48.0	3.1
1ヶ月頃			
3ヶ月頃	1995/8/2	60.5	6.8
6ヶ月頃	1995/12/2	69.5	8.8
1歳頃	1996/5/19	76.0	10.2
1歳6ヶ月頃	1996/11/10	81.0	10.7
2歳頃			
3歳頃	1998/5/29	91.4	14.0
4歳頃	1999/5/22	98.1	14.9
5歳頃	2000/5/25	104.4	17.0
6歳頃	2001/5/25	110.4	18.8
小学校1年1学期	2002/4/22	116.8	21.0
2学期	2002/10/15	119.3	21.8
3学期			
小学校2年1学期	2003/4/15	121.7	23.2
2学期	2003/10/22	124.4	24.8
3学期			
小学校3年1学期	2004/4/15	125.4	26.1
2学期	2004/10/25	127.8	28.5
3学期			
小学校4年1学期	2005/4/18	129.2	29.4
2学期	2005/10/18	130.1	28.5
3学期			
小学校5年1学期	2006/4/22	131.7	30.4
2学期	2006/8/15	132.3	31.1
3学期	2007/2/6	133.4	31.4
小学校6年1学期			
2学期			
3学期			
中学校1年1学期			
2学期			
3学期			
中学校2年1学期			
2学期			
3学期			
中学校3年1学期			
2学期			
3学期			
高校1年			
高校2年			
高校3年			

表1 身長体重表

男子 身長・体重発育曲線

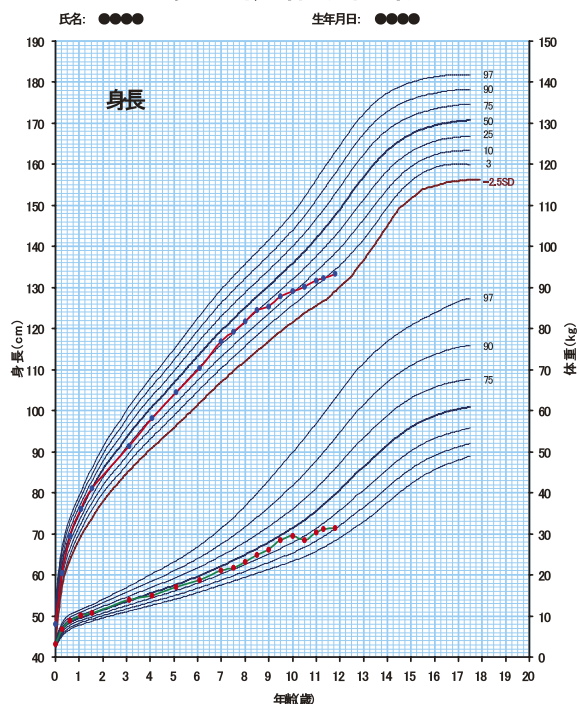


図1 標準成長曲線(発育曲線)の記入例

が後の検査でわかりました。成長曲線をみると、すでに3年前頃より年間成長率が低くなってきているのがわかると思います。この図は日本学校保健会で販売している、個人の成長記録を簡単に標準曲線に書き込めるソフトで作成したものです。

図の標準成長曲線は、2000年の厚生労働省の乳幼児身体発育調査と文部科学省の学校保健統計調査より作成されています。標準成長曲線は10年ごとに作成されていますが、2010年のデータがでてから当分の間は2000年の標準成長曲線を用いることが日本小児内分泌学会と日本成長学会の合同委員会での取り決めです。その理由は、わが国ではsecular trend（成長促進現象）が1990年ごろに終了し、身長は大きな変化がないであろうということ。しかし、体重は増えていく傾向にあるので2000年を標準として評価するのが適当であろうというコンセンサスによるものです。

標準成長曲線の作り方としては、標準偏差を用いる方法（SDスコアまたはZスコア法）とパーセンタイルを用いる方法があります。図はパーセ

ンタイル法を用いています。身長の度数分布曲線は正規分布を示すため、多数の小児を母集団として平均値 mean (M) および標準偏差 standard deviation (SD) が求められていれば、それを尺度として小児の身長を評価する方法がSDスコア法です。SDスコア法で表すとき、 $M \pm 2SD$ の範囲内は正常範囲と考え、 $-2SD$ 以下の児は、学問上低身長と定義されます。パーセンタイル法は、同性同年齢の子どもを100人集めて身長の順番に並べたときに自分より下に何人いるか示す方法です。SD法の $-2SD$ は、2.3パーセンタイルにあたるので、同性同年齢の子どもが100人いたときには、2～3人が低身長という定義にあてはまります。パーセンタイル曲線のときは3パーセンタイルより低い場合に低身長と考えれば良いと思います。

体重は正規分布しないので、等間隔のSD法で体重の程度を評価することは出来ません。パーセンタイル法に変換したSD法の成長曲線を用いるのが正しい成長曲線の使い方です。

パーセンタイル成長曲線・肥満度曲線が簡単に描ける

(財)日本学校保健会推薦

Vista 対応

子どもの健康管理プログラム 改訂版

発育曲線を活用しよう!!

発売中

お手持ちのEXCELデータの貼り付けでもOK。氏名、性別、生年月日、計測値(身長・体重どちらか一方でも可)を入力。後は処理したいボタンを押すだけで、個々の児童生徒の身長と体重の発育曲線が描けます。

この改訂版では身体計測値について学校保健統計処理をすとか、「低身長や高身長」、「肥満ややせ」といった成長や栄養状態の異常を簡単に条件づけをして検索抽出する機能が強化されています。成長曲線を作成したデータはデータベースとして管理できるので大変便利です。

また、旧版のデータはデータ変換ファイルで簡単に、この改訂版のデータファイルに変換できます。

著作者 村田光範

(東京女子医科大学名誉教授)

加藤則子

(国立保健医療科学院生涯保健部部长)

定価：3,675円 (送料別)

(本体:3,500円 消費税:175円)

販売委託 (申込先) / 勝美印刷 (株)

<http://www.shobix.co.jp/paru/>

Tel.03-3812-5223

担当者：竹内、小谷

E-Mail: takeuchi@shobix.co.jp

本会 HP から購入できます。



活用ください 学校保健ポータルサイト

◆ ダウンロードできます

- ・ 学校生活管理指導表
- ・ 学校生活管理指導表 (アレルギー疾患用)
- ・ 医薬品に関する教育教材「医薬品と健康 (高校生用)」ほか

◆ いつも情報提供

- ・ 健康最新ニュース、イベントカレンダー、
- ・ 「全国学校欠席者状況マップ」症状別で表示でき、感染症の流行早期検知に役立てて下さい!

◆ 「学校保健」で検索! <http://www.gakkohoken.jp/>



倶楽部

が

く

ほ

ぐくほ倶楽部は読者ページです。学校保健に限らず、どんな話題でも郵送かE-mailで。皆様からの投稿をお待ちしています。

〒105-0001 東京都港区虎ノ門2-13-17
 虎ノ門2丁目タワー6F
 日本学校保健会「学校保健」ぐくほ倶楽部係
 E-mail:ko-hou@hokenkai.or.jp 編集担当：三谷

わが街出雲の健康教育と感染症対策

島根県出雲市立今市小学校 学校医 杉浦 弘明

喫煙予防教育

縁結びの神様の出雲大社で有名な島根県出雲市にあります市立今市小学校の学校医をさせていただきます。この小学校は明治6年に創立された歴史と伝統のある学校です。また私自身の母校でもあります。すぐ近くには日本海、宍道湖、中国山地があり数多くの魚や鳥がいて、自然や生態観察にご興味がある方には楽しいところです。

学校医として養護の先生をサポートしながら児童の「体」と「心」の健康状態を見守り、よりよい「教育環境」の整備につとめています。故郷と友人を愛しいつも感謝の気持ちを忘れない大人になってほしいと願っています。

担当校を含めて地域全体の学



喫煙予防教育授業の1コマ

校に対して私が行っている取組は、喫煙予防教育と感染症対策です。

健康教育の講師派遣のために市の健康増進課が実施する小中学校へのアンケート調査では医師による喫煙予防教育の希望が多数寄せられます。これは医師による診察の経験を交えての講義は、子どもたちへの影響力がとても大きいからだそうです。そこで、2005年に島根県医師会が設置されてから、私はのべ50か所以上の学校で「たばこと健康」についての授業を行ってきました。その基本的コンセプトは、①すでに喫煙習慣が出来上がってニコチン中毒症になってしまうと禁煙はとても困難です。だから習慣化しないように最初からたばこを吸わないほうが効果的である。②法律を破って未成年が喫煙することはいけない。③授業を通してご両親の禁煙のきっかけにしてほしい。④健康の大切さを話すことによって、命の尊さを考えてほしい。これらの内容

をコンピューターを用いて質問や動画で説明すると子どもたちは一生懸命聞き入ってくれます。特に小学校での講義は子どもたちの反応もよく多くの質問がありとてもやりがいがあります。

学校欠席者情報収集システムの研究と効果

次に感染症の取り組みです。

養護の先生方は毎朝クラス担任から報告される健康観察の結果をまとめ、異常があった場合には関係教職員、学校医へ相談と報告をし、さらに学級、学年閉鎖処置等があれば教育委員会、保健所への報告と各家庭へと連絡をなさいます。また、近隣の学校とも情報交換をされるなど大変な努力をしてきておられます。また、インフルエンザの流行時には、保健室の利用者も増えるのでとても多忙です。その様子を拝見しながら何とか手助けできないかと思っていました。

学校医としては、日々の診療の経験と毎週報告される感染症発生動向調査などの感染症情報と養護の先生の報告とを照合し、養護の先生に助言を行っています。もし感染症が流行したら素早く対応して、一人でも患者を減らし、子どもたちに安全な教育環境を提供したいと思っています。しかし紙媒体による報告では即時性に欠ける問題点がありました。そこで2007年に国立感染症研究所、出雲医師会学校医会、出雲市教育委員会でインターネットを用いた学校欠席者情報システムを構築し市内3小中学校と2私立保育園にモデル校として参加していただきました。これは養護の先生に毎日の欠席者数を症状ごとにウェブ画面に入力していただき、その結果を当日中に自動的に判断、統計処理をして、各々の学校と地域全体の状況を担当者に報告するシステムです。(情報漏えいの心配はなく、個人情報に含まれません。)2008年9月1日からは合併前の旧出雲市の全公立小中学校の20校を対象として実施されました。その効果と実用性が評価され導入費用無料ということもあり2009年の新型インフルエンザ対策として全国の多くの自治体で使用されました。2009年3月には全国の約9000校でご活用していただくこととなりました。ご利用いただいた養護の先生は従来の作業に比べて5分程度の入力の手間がかかりますが、地域全体の様子がわかり感染症の流行を予測できた点についてご評価をいただきました。学校医としても午前中に学校の様子がわかり新型インフルエンザのピークの時には大変有用でした。

今後も養護の先生と情報を常に共有して児童の健康管理をしていきたいと思っています。

養護教諭のページ

平成22年度
全国養護教諭研究大会のご案内

徳島県養護教諭協会

開催日
平成22年
8月19日(木)
8月20日(金)
会場：アスティ
とくしま
(徳島市)

徳島県養護教諭協会は、県内小学校、中学校、高校・特別支援学校の養護教諭・養護助教諭が全員加入し、養護教諭の職務改善のための要望や、資質向上のための研修を行っています。今年は、全国養護教諭研究大会に向けて会員一同がんばっていますので、よろしくお願いします。



すだちくん

企画展

キーワード「連携」～わ・わ・わ～
輪・和・波

企画展では、「連携」をキーワードに小・中・高・特別支援学校が一致協力して生活習慣病予防・歯と口の健康・性に関する教育等の資料の展示を行います。

輪の中核となる養護教諭

みんなの力を総和にして

波のように広げよう健康教育

徳島県の糖尿病死亡率が高いという記録が続いています。そこで、県教委・医師会等と連携を図り、平成12年度から「生活習慣病予防」対策に取り組んできました。徳島県体格評価ソフト「あわっこ」を使用し、学校における健康教育、健康管理に活用しています。肥満傾向児や糖尿病の早期発見のための学校から医療機関受診へのシステム化（小児肥満の健康管理システム、学校糖尿病検尿システム、学校腎臓病検尿システム）が図られ、ハイリスク者へのフォローアップ体制が整いました。それとともに、各学校や研究会においては、生活習慣病予防の観点から保健指導や保健管理の充実が図られ、少しずつですが、近年、子どもたちにその成果がみられるようになってきています。その取り組みを中心に紹介します。

情報交換会について

大会1日目の夜、パークウェストンで情報交換会を開催します。全国各地から集まった仲間たちと、徳島の郷土料理を味わいながら、日々の執務や各県の現状について、ゆっくり語り合しましょう。また、アトラクションでは、プロによる阿波踊りをご披露します。“踊る阿呆に見る阿呆”と言われるように、見て踊って思いっきり楽しんでください。きっと、日ごろの疲れが吹き飛ぶことでしょう！



阿波の人形浄瑠璃



鳴門の渦潮

大会終了後には、足をのばして、祖谷のかずら橋に川下り、吉野川の清流“鮎料理”“祖谷そば”を、あるいは、鳴門の渦潮見学“鳴門鯛”を堪能してはどうでしょうか。また、お急ぎの時には、徳島市内で阿波の人形浄瑠璃の見学に徳島ラーメンを味わってください。

写真提供／徳島県観光協会



皆さまのお越しを心よりお待ちしております！




笑顔輝け！健康ライブラリー



**21世紀・新しい時代の
健康教育推進学校の実践
—第8集—**

平成21年度健康教育推進
学校表彰事業で最優秀賞、
優秀賞受賞校の実践集。


発行/財日本学校保健会
1000円(税込)



**平成20年度 児童生徒の
健康状態サーベイランス
事業報告書**

児童生徒の生活習慣や健
康状態との関連などを調査
した最新版の報告書。

発行/財日本学校保健会
1300円(税込)



**食と咀嚼に対する
実態等の調査委員会報告書**

「食」と「かむ」ことに焦
点をあて調査した学校歯科
保健分野の報告書。

発行/財日本学校保健会
800円(税込)



**メディアリテラシーと
子どもの健康調査委員会
報告書**

メディア情報が青少年に
及ぼす問題を考察する目的
でまとめた調査報告書。

発行/財日本学校保健会
予定価格 1000円(税込)




**臨床医のための皮膚病総合雑誌
月刊「皮膚病診療」
2009年増刊号
学校保健と
学校感染症**

皮膚科領域を中心に小児科、アレ
ルギー科など幅広い領域の専門家
が執筆。学校保健における皮膚科
のさまざまな取り組みや、実際に
よく診られる皮膚疾患を写真入り
で解説。ぜひお役立てください。

定価5,040円(本体4,800円)
送料180円

【主な内容】
●学校感染症カラーアトラス(40頁)
●全国各地における皮膚科の学校保
健活動
●日本医師会の最近の学校保健活動
●小児科および児童生徒によく診ら
れる皮膚疾患
●心身症と皮膚疾患
●紫外線の子どもの影響と対策
●食物アレルギーの診断と対策、食
物負荷試験
●おしゃべり障害
●解説/第三種学校伝染病・最近
の結核・最近のSTI
●子どもの接し方、親との対応
●アンケート・学校保健と学校感染症
こちらからもお申し込みいただけます。
皮膚病診療ホームページ
<http://www.hifuhyoh-shinyoh.com/>


発行 株式会社協和企画 丸善[出版事業部] 〒105-0004 東京都港区新橋2-20-15 新橋駅前ビル1号館2階 電話03-3575-0244(販売)03-3571-0618(編集部)



**日本外来臨床精神医学会 編
Q&Aで理解する
心の診察室**

子供から若者、成人、老年の男女まで、
心のトラブルについて知りたいことを
約**300**項目の質問にまとめました。
あなたの疑問がきっと見つかります。

●日本外来臨床精神医学会 設立10周年記念出版。
◎読売新聞のくらし・健康欄で紹介。好評発売中。
●A5判 224頁 定価 2,310円(本体2,200円) ISBN978-4-88052-012-4



**やさしい
精神医学講義**

コメディカルを目指す
学生のための教科書。
養護教諭の先生方にも
役立つ内容です。
帝京平成大学客員教授
石山淳一 著

著者は厚生労働大臣賞(平成21年度)受賞。
●A5判 312頁 定価 3,150円(本体3,000円)
ISBN978-4-88052-010-0

虎ノ門 (103)

“学校健診風景の今昔”

公立校三校の学校医をお受けして早くも40年になろうとしています。その間、毎年の健診で、元気な子どもたちと直接ふれあえる機会を持てることは大変有意義であり楽しみであります。

昨年春の学校健診での出来事でしたが、順番で私の前に進んで来た一年生の男子が、何かもじもじしているなどと思ったら、次の瞬間ズボンの裾から水様のものが流れ出していました。驚く間もなく、陪席していた養護の先生が間髪を入れずその子をつい立ての陰に誘導し、ほんの数分後には何事もなかったかの様に再び私の前にもどしてきました。次に整列して待っていた子どもたちにも気付かせない手際良さは、只々感動するばかりでした。

以前、と云っても20～30年前迄は、コチコチになった新一年生が、初めての学校健診で粗相し、友達にからかわれている風景はさほどめずらしいことではなく、私にはむしろさわやかで微笑ましい風景として記憶に残っていました。

しかし、最近では、こんな風景はしばらく

見ていなかったのも何かホッとするようななつかしささえ感じられたのも事実です。

それと云うのも、最近の新一年生の学校健診では、初対面にもかかわらず、特に臆する様子もなく平気な顔で受診する子が大部分で、極端な子は片足を少し前に出し、両肩を丸めて前ごみになり「なにすんの！」と云わんばかりの態度をとる子さえいる位だからです。良い悪いは別にしても、子どもたちの様子が大きく変わってきていることは事実で、学校での教育も当然昔のままで良い訳がなく、それに準じた対応が要求されていることを痛感させられます。

それにしても、今回の養護の先生の的確な対応には、改めて感服いたしました。おそらく新一年生の為には、替えの下着類も用意されていたのだろうし、種々の場面を想定して細心の注意を払って臨んでおられた成果によるものと思われまます。学校保健にたずさわる関係者が何時も子どもたちにこの様な細心の注意と暖かい心遣いを持って接していただくことが学校保健活動のスタートであり、推進のための基本であると言っても良いでしょう。

(編集委員長 雪下 國雄)

編 集 後 記

春は健康診断の時期で養護の先生たちは忙しい毎日を送られていることでしょう。今号では歯・口に関する話題のほかに発育曲線(成長曲線)の記事を載せました。

世界的に見ると、日本のように身体測定を数多く行っている国は他にあまりないということです。しかし、その数値を学校保健にどう活用するかとなると、未だ未だだそうです。執筆者の田中先生によると、何らかの障害があって発育に支障をきたす子どもが少なからず見受けられ、発育曲

線に定期的にプロットすることで子どもの成長障害を早期検知でき、早く治療すれば、本来その子がもっている身長の高さまで成長できるということでした。

5月5日は端午の節句、童謡「背くらべ」の歌詞にも込められているように、子どもたちはいつの時代でも健やかに成長してもらいたいものです。先生方のサポート、そして子どもたちの健康へとつなげていくのが本会の役目です。今年度も皆様のご支援とご協力をお願いします。(事務局)

財団法人日本学校保健会 **賛助会員ご加入のお願い**

本会はその財源確保の一環として企業・団体・個人の方々から賛助会員を募っています。

子どもたちの健やかな成長を願う全国の学校医が中心となって発足してから90年、近年の多様化する健康課題に対応するためには、保健管理・指導や健康教育等の学校保健の拡充を図らねばなりません。多くの皆様のご加入をよろしくお願いいたします。

詳細は HP : <http://www.hokenkai.or.jp> または電話 03-3501-0968 でお問合せください。

平成22年度「学校保健用品・図書等推薦」一覧表

推薦期間 平成22年4月1日～平成23年3月31日

品 目	摘 要	会 社 名
肝油ドロップ	栄養機能食品	河合薬業株式会社
イソジンうがい薬	口腔内及びのどの殺菌、消毒、洗浄、口臭の除去	明治製菓株式会社
イソジンきず薬	きり傷、さし傷、すりむき傷、靴ずれ、やけど等の患部の殺菌・消毒	明治製菓株式会社
シャボネット石鹸液	手指の洗浄・消毒・殺菌 排水後は微生物によってすばやく分解される	サラヤ株式会社
コロロ自動うがい器	適正倍率に希釈されたうがい液がノズルから出る コップいらすの自動うがい器	サラヤ株式会社
バイゲラックス	プール用水、飲料水等の殺菌消毒剤	株式会社カズサ
電動付歯ブラシ「こどもハピカ」	米国FDAの規格基準を満たす品質・安全性。子どもが楽しく歯を磨け、自然に歯磨き習慣が身につく仕様	株式会社ミニマム
JES（呼吸・吸圧）シューズ	上ばき・体育館用・グラウンド用	日本教育シューズ協議会
クリーンウェット	消毒用お手ふき紙	株式会社トーヨ
ペースサン [®]	プール用、足腰洗槽用 殺菌消毒剤	多木化学株式会社
日産アクアチェック [®] シリーズ	残留塩素測定試験紙	日産化学工業株式会社
ハイライト [®]	プール用 殺菌・消毒剤	日産化学工業株式会社
ネオクロール	プール用 殺菌・消毒剤	四国化成工業株式会社
クリニカ kid's ハブラシ生え替わり期用	子どもの成長過程に合わせた歯科医推奨設計のハブラシ	ライオン株式会社
ライオンこどもハブラシ6-12才用（星のカービィ）（まめゴマ）	先端丸形カットの毛先だから生え替わり期の高さがふぞろいの歯もきれいに磨けるハブラシ	ライオン株式会社
アルボース石鹸液	手指の殺菌・消毒・洗浄 天然ヤシ油を原料とする純植物性石鹸液	株式会社アルボース
オロナインH軟膏及びオロナイン液	皮膚疾患・外傷治療薬及び殺菌消毒薬	大塚製薬株式会社
ポカリスエット	水分・電解質補給（清涼飲料水）	大塚製薬株式会社
エネルゲン	水分・電解質補給（清涼飲料水）	大塚製薬株式会社
アミノバリュー	水分・電解質・アミノ酸補給（清涼飲料水）	大塚製薬株式会社
キシリトールガム	児童生徒の口腔保健の向上を目的としたチューインガム及びタブレット	株式会社ロツテ
小学校・中学校・高校生向けシャツ・ブラウス	耐洗濯性に優れた制菌加工を施した形態安定シャツ	エクセル株式会社
日曹ハイクロン TB-200	プール用 殺菌・消毒剤	日本曹達株式会社
ウイスペー（多い日用シリーズ）	体育やクラブ活動、課外授業時など経血量が多いときでも安心して使える生理用ナプキン	プロクター・アンド・ギャンブル・ジャパン株式会社（P&G）
らくがきこどもせっけん（おえかきバスタイム）	体やお風呂場にお絵かきができ、かつ洗い流すことで洗浄も出来る	株式会社バンダイ
積層はがせるまな板	積層式の為、汚れがひどくなれば一枚一枚はがせる衛生的な調理用プラスチックまな板	山県化学株式会社
ダニスキャン	ダニアレルゲンを簡易に測定するダニ抗原判定キット	アサヒフードアンドヘルスケア株式会社
「バンドエイド [®] 」キズパワーパッド 治癒促進用・保護用	治癒促進用：創傷及び軽度の熱傷の「治癒の促進」 「痛みの軽減」「湿潤環境の維持」「保護」 保護用：傷の被覆及び保護、傷口の皮膚接合、身体の創傷部位の支持等	ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社 コンシューマーカンパニー
学童用ディスポーザブル式薬液ディスペンサー スクールデコ	学校における手洗い石鹸液用及び洋式便座クリーナー用。親しみやすいデザインと使いやすい形状	サラヤ株式会社
マウスミラー	歯科保健指導用手鏡。持ちやすく、自分の口の中を自分の目で確かめられる手鏡	財団法人ライオン歯科衛生研究所

品 目	摘 要	会 社 名
パッシブガスチューブ (ホルムアルデヒド用、VOCs用)	室内化学物質測定。3次元に空気採取でき、精度の高いサンプリングが可能。厚労省・文科省・環境省に対応する分析(公定法)を採用	財団法人東京顕微鏡院
マイティチェッカー	屋内の塵性ダニアレルゲンを抽出液に浸し発色チェッカーで確認する	リオンテック株式会社
ティースキーパー「ネオ」	ケガで抜けた歯を歯科医院で元に戻すまでの間、歯根膜を保護する救急保存液	ネオ製薬工業株式会社
咀嚼計「かみかみセンサー」	給食時など食事における「咀嚼」を推進するために、咀嚼回数と時間を表示できる機能を備えた器具	日陶科学株式会社
「ミニアン(CPR-AED 学習キット)」	AED(自動体外式除細動器)の取扱を含むCPR(心肺蘇生)の手順を、DVD教材を見ながら学習できるキット	レールダル メディカル ジャパン株式会社
健康管理支援ソフト	児童生徒の生活習慣病予防等に活用。個々にパーソナル発育曲線が描けるPC用ソフト	勝美印刷株式会社
色弱模擬フィルタセット「バリエーションパンケーキP・D」	色の見え方が他人と異なる人の色の見分けにくさを体験できる光学フィルタ	伊藤光学工業株式会社
シキボウ「健康快服」	学生服、体操服、給食衣などの抗ウイルス加工、抗菌防臭加工、制菌加工、抗かび加工を施した生地	シキボウ株式会社
南海クリヤー・クリヤー	プール用殺菌・消毒剤	南海化学株式会社
スタートリクロン・ダイクロン	プール用殺菌・消毒剤	南海化学株式会社
アニメでわかる! インフルエンザ	平成21年流行の新型インフルエンザ情報も取り入れた映像教材	株式会社学研教育出版
イソジン泡ハンドウォッシュ	手指・皮膚の殺菌、消毒用洗剤	明治製菓株式会社
はてなで学ぶ保健指導 スポーツと汗の季節の健康ふしぎ館	保健指導の際の一斉視聴及び部分視聴	株式会社NHKエンタープライズ

株式会社 協和企画 の 月刊誌

臨床医のための
皮膚病総合雑誌

月刊 皮膚病診療

[編集委員] 西岡 清/斉藤 隆三/向井 秀樹/三橋善比古/浅井 俊弥

B5判, 120ページ (カラー60ページ) 毎月1日発行 通常号1部定価2,415円 (本体2,300円+税/送料116円)
※2010年1月号から1部定価2,520円 (本体2,400円+税/送料116円)



皮膚科領域における学校保健関連の話題を網羅した特集号です。

学校感染症カラーアトラスで児童生徒によく診る皮膚疾患を掲載。また、全国各地の皮膚科医会・医師会による学校保健へのさまざまな取り組みを紹介しています。各論では、予防接種、紫外線、心身症、食物アレルギー、おしゃべり障害、最近の結核・STIなど、多領域にわたり学校保健・学校感染症について情報を集めた1冊。ぜひお役立てください。

定価5,040円 (本体4,800円) 送料180円

2009年増刊号 学校保健と学校感染症

(こちらからもお申し込みいただけます)

皮膚病診療ホームページ <http://www.hifubyoh-shinryoh.com/>

発行 株式会社 協和企画 〒105-0004 東京都港区新橋2-20-15 新橋駅前ビル1号館2階
TEL (03) 3575-0244 (販売) (03) 3571-0618 (皮膚病診療編集部)

発売 丸善 [出版事業部] 〒103-8244 東京都中央区日本橋3-9-2 第二丸善ビル営業部
TEL (03) 3272-0521 FAX (03) 3272-0693 <http://pub.maruzen.co.jp/>



KYOWA KIKAKU

